



令和元年 12月20日

## 大掃除の時に使用していない電気こんろがないか確認！！

～ こんろが物置き場になっていませんか？ ～



東京消防庁では、使用していない小型キッチンユニット用電気こんろのつまみを誤って入れたり、ぶつかってスイッチが入ったりすることで、こんろの上に置かれた可燃物が燃える火災が発生していることから、注意を呼びかけています。

大掃除などの機会に、使用していない電気こんろがないか確認し、電源プラグを抜くなど火災予防に努めましょう。

### 【調理機器の取扱いによる火災に注意】

電気こんろ（シーズヒーターのもの）は、ヒーターがむき出しのものが見えないものがあります。ヒーターが見えないものは火災の危険性を感じにくく、上や周囲に可燃物を置いてしまうことがあり、誤ってスイッチが入ることで火災が発生しています。

同型の電気こんろで平成26年から平成30年の5年間に火災が98件発生しています。本年は12月11日までで22件の火災が発生しています。

例 ヒーターが見えない製品	ヒーターが見える製品
	

### 【火災を防ぐために】

- ・電気こんろの上や周囲に可燃物を置かないようにしましょう。
- ・長期間使用しない電気こんろの電源プラグは抜いておきましょう。  
また、電気こんろ専用のブレーカーがあれば切断しておきましょう。

※ 詳細は、別紙資料を参照してください。

※ 事例等の写真を希望する社は、広報課報道係までご連絡ください。

問合せ先

{ 東京消防庁 電話 3212-2111(代)  
 予防部調査課 内線 5065 5066  
 広報課報道係 内線 2345～2350 }

【別紙】

1 最近5年間の電気こんろの火災状況等

表1 火災状況及び損害状況（平成26年～平成30年）

年 別	火災状況					損害状況			
	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	（ m <sup>2</sup> ）	（ m <sup>2</sup> ）	死者 （人）	負傷者 （人）
合計									
26年	30	-	-	6	24	29	52	-	4
27年	16	-	-	2	14	1	2	-	2
28年	17	-	-	5	12	27	55	-	6
29年	24	-	-	3	21	23	11	-	3
30年	11	-	-	2	9	8	29	-	1

元年	22	-	-	1	21	-	22	-	2
----	----	---	---	---	----	---	----	---	---

注：本年の数値は、12月11日現在の速報値で、今後変更する場合があります。

電気こんろの火災は、平成26年から平成30年の5年間をみると平成26年が30件で最も多く、次いで平成29年が24件となっています。平成30年は11件と少なかつたものの、令和元年は22件と増加しています。死傷者をみると、死者は発生していませんが、負傷者が毎年発生しています（表1参照）。

表2 電気こんろの火災に至った理由別

年 別	合計	誤ってスイッチが入る （入れる）	放置する・ 忘れる	構造が不完 全である	よ考え違いに 使用を誤る	過熱する	そ の 他
合計	98	31	22	14	9	7	15
26年	30	9	4	7	1	2	7
27年	16	3	6	3	-	1	3
28年	17	6	4	-	4	1	2
29年	24	11	6	2	4	1	-
30年	11	2	2	2	-	2	3

元年	22	5	8	2	2	1	4
----	----	---	---	---	---	---	---

注：本年の数値は、12月11日現在の速報値で、今後変更する場合があります。

次に、火災に至った理由別にみてみます。「誤ってスイッチが入る（入れる）」、「放置する・忘れる」が53件（54.1%）で行為者の使用方法などに起因するものがあり、次いでリコール品の「構造が不完全である」が14件（14.3%）でこれらを合わせると電気こんろ火災の7割近くを占めています（表2参照）

「誤ってスイッチが入る（入れる）」で発生した火災の電気こんろの使用用途の内訳をみると、こんろとして使用していない割合が7割以上を占めています。（図参照）

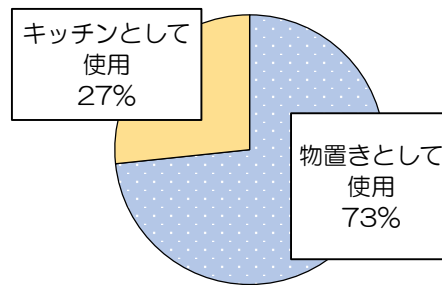


図 誤ってスイッチが入って発生した火災の使用用途の内訳（最近5年間）

## 電気こんろの火災を防ぐポイント

- こんろの上や周囲に可燃物を置かないようにしましょう。
- 長期間使用しないこんろの電源プラグは抜いておきましょう。  
また、電気こんろ専用のブレーカーがあれば切断しておきましょう。
- 電気こんろを使用する際はその場を離れないようにしましょう。
- つまみにうっかり体や物が当たらないように注意しましょう。
- 使用方法を取扱説明書で確認してから使用しましょう。
- リコール品か確認し、リコール品の場合、対応済か確認しましょう。

### 例 電気こんろの電源プラグの位置





※電気こんろのヒーターが見えない製品



※電源プラグが容易に見えない場合は、無理をせず抜かないようにしてください。

マンションやアパートには、ガスコンロやガステーブルに代わり電気コンロが備え付けられていることがあります。使用方法がわからない、リコール品と気が付かないまま使用したなどにより火災が発生するので注意しましょう。

## 2 火災事例

事例1 電気コンロのスイッチを誤って入れ出火した火災			
構造・用途等	耐火造9/1 複合用途	出火階・箇所	1階・管理人室
焼損程度	建物部分焼1棟 内壁2㎡、電気ポット等焼損		
<p>この火災は、複合用途建物の1階管理室から出火したものです。</p> <p>出火原因は、清掃作業員が、電気コンロの上に敷いた合成樹脂板の上に置いていた電気ポットでお湯を沸かそうとした際、誤って電気コンロのスイッチを入れてしまったため、合成樹脂板が過熱されて出火したものです。</p> <p>火元建物8階事務所従業員は、8階からエレベーターで1階に下りる途中に、焦げ臭いにおいを感じました。1階に到着後、周囲を確認すると管理人室から煙と炎が出ていたので、建物の外から自分の携帯電話で119番通報しました。</p> <p>2階で作業していた工事作業員は、煙が漂い、焦げ臭いにおいがしたので1階に下りると管理人室から炎がでていたので、建物内の消火器を使って初期消火しました。</p> <p>教訓等</p> <p>この火災は、使用していない電気コンロの上に電気ポット、合成樹脂板等の可燃物を置き、誤って電気コンロのスイッチを入れたため発生しています。</p> <p>電気コンロを使用しない場合は、電源プラグを抜くことで火災の発生を防ぐことができます。</p> <p>大掃除等の機会をとらえ、使用していない電気コンロがある場合は、火災予防のために電源プラグを抜きましょう。</p>			
			
写真1 出火箇所の状況		写真2 電気コンロの状況	

## 事例2 リコールが行われている電気こんろから出火した火災

構造・用途等	耐火造8/1 複合用途 (飲食店・事務所・診療所)	出火階・箇所	5階・台所
焼損程度	建物ぼや1棟 プラスチックケース、タオル等焼損		

この火災は、複合用途建物の5階事務所内の給湯室に設置されている電気こんろから出火したものです。勤務員が休憩中に、焦げ臭いにおいがしたため給湯室へ行くと、電気こんろ上に置いていたタオルから炎が出ているのを発見しました。

出火原因は、電気こんろのつまみに体の一部が触れて、スイッチが回ったことに気付かずにその場を離れたため、電気こんろ上に置いていたプラスチックケースとタオルが過熱されて出火に至ったもので、公表されている内容と同様の不具合により出火しました。

### ●リコールとなった電気こんろについて

製造会社：富士工業株式会社

販売会社：株式会社LIXIL（旧 サンウェーブ工業株式会社）

機種・型式：SBE-101-100V等

製造期間：昭和59年～平成8年

製造台数：530,401台

問合せ先：・富士工業株式会社 TEL：0120-500-621

・株式会社LIXIL（旧 サンウェーブ工業株式会社）  
TEL：0120-190-530

・小型キッチンユニット用電気こんろ協議会  
TEL：0120-355-915

消費者庁リコール情報サイト：

<https://www.recall.caa.go.jp/result/detail.php?rci=00000002034&screenkbn=01>



写真3 電気こんろの状況  
(つまみが脱落している)



写真4 つまみ部分拡大  
(本来のつまみ部)